

分野別講座「板書とノート指導」

参加者 30名 まとめ 荒井 賢一

●提案 岡本 美穂

「板書について学ぶ場がない。」
と、岡本先生は言います。

以下、講座の中で話されたことを箇条書きで紹介します。

①黒板の字がきたないだけで保護者からの信頼を失う。

②板書を子どもたちと一緒に作っていく。(イメージマップ)

③「見て写し病にならないで。」と伝える。(きれいなノートにすることに満足するな。)

④使うチョークの色は決めておく。(黄…大事なこと)

⑤国語の最初のときは、かなり量を少なくシンプルにする。(色も使わない。)

⑥「同じ速さで、そっくりの字を書いて下さい。」(私(教師)はこ

こまで求めますよ。

⑦ノート指導をするなかで聴く力もつけていく。

⑧「一行あけて一マスあけて」

聴くを見える化し、自己評価し、

ノートの大切さを自覚する。

⑨準備…板書計画を子どものノートに書いておく。

⑩詩を教師と一緒にゆっくりノートの書いていくと言葉にこだわることが出来る。

⑪書くのがしんどい子には、メモの書き方を教える。(例、ふき出し)

⑫「1年生や弟や妹に伝えるとしたらどう振り返りますか。」

⑬題名をつけて振り返りを書かせてみる。(なぜその題名にしたかを聞く。)

⑭字の大きさ…1年生は黒板消しぐらいの大きさにする。

⑮チョークは回しながら使っていく。(とがらせるように)

⑯しやがみながら子どもと一緒に書く。

板書とノート指導を通して、子どもを伸ばしているのです。

分野別講座「ICTを使った授業づくり」

参加者 19名 まとめ 岡本 美穂

iPadx。パワーポイントで

日常の授業を向上させる

荒井 賢一

昔から引き継がれてきた授業技術+最新の技術を上手に活用する力の必要性を改めて感じました。

今回は10このポイントが示されました。

①教科書をiPadに入れて使う。
②板書をiPadのカメラで撮影する。

③動画をiPadのiMovieで編集する。

④PowerPointをiPadだけで作る。

⑤iPadを映像機器につないで使う。

⑥iPadのアプリを授業で活かす。
⑦コンテンツをプレゼンマウスで使う。

⑧iPadを2台持ちで使い分ける。
⑨教養を深める相棒としてiPadを使う。

⑩PowerPointや自作PDFを共有する。

いい意味での「時短」です。まさに教育的効率の視点から考えると、楽しみながらも楽に教材づくりにつながることも知りました。

この講座は3年目になります。毎回思うのは、案外「簡単」。そしてやってみようと思えることです。

1回目受講したときは「iPad買いたい」と思いそれがきっかけで購入しました。2回目の受講では、PowerPointの簡単さ、授業で使ってみよう、ということでした。

そして今回は、アプリの多様さにびっくりしました。おすすめされたアプリの中でも「筆順」アプリは早速使います。

なかなか普段は聞く余裕がありません。しかし、最近夏にこの講座を受講し、夏休み中に「試してみる」という流れになっています。